

一般質問 議:議員/理:理事者

- 勝山市の高齢化社会対策について
- 災害時における防災医療対策について

その他の質問

- ・世界関税不況における勝山市民に対する生活支援について



市政会 丸山忠男 議員



議 勝山市は、今後ますます増えるであろう超高齢者社会について、どのような施策で臨まれるのか市長の見解を伺う。

理 市は、介護認定申請の約半数が85歳以上であることを踏まえ、80歳の段階で生活や健康を振り返る「元気度チェック」を実施し、必要に応じて介護予防の支援につなげている。介護予防教室や出前講座、オンライン体操教室などを通じ、高齢者の健康づくりを推進しているほか、地域においては地区サロンや老人クラブなど自主的な活動もあり、楽しく集う場となっている。今後も元気に過ごしていただけるような事業の実施に努めていく。

議 近い将来南海トラフ巨大地震や、また昨年1月の能登半島地震、更には2022年に経験した大雨災害等における防災医療対策について市の見解を伺う。

理 市は高齢化率が高く、災害時の防災医療対策は重要なものと考えている。2022年の大雨災害時には、保健師や看護師が被災地域の独居高齢者を訪問し、介護施設への受け入れ調整を行ったり、勝山市社会福祉協議会やケアマネジャーと連携して被災者の健康確認などを行ったりした。

市は毎年、地震や豪雨を想定した災害訓練を実施し、大規模災害時の医療対策については、消防署と連携して災害時の医療体制や被災者の健康管理、救急医療対応など確認を行っている。また勝山市医師会、市内医療機関等との連携や県への災害派遣医療チームの派遣要請も含めて、今後も防災医療対策に取り組んでいく。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 熱中症リスクに備えての腕時計型デバイスについて
- 空き家になる前の相談窓口支援について

その他の質問

- ・市内企業の賃上げ額と賃上げ率について
- ・サービス業に携わる家庭の子どもへの休暇制度の導入について



市政会 下道恵子 議員



議 熱中症になる前に深部体温の上昇を自動で検知して知らせてくれる腕時計型デバイスがある。アラームが鳴りLEDランプが点いたら、すぐに水分補給や涼しい場所で休憩することで熱中症を防げる。腕時計型デバイスを教育現場に配布したり、職場や高齢者の方に希望購入してもらうことについて市の考えを伺う。

理 市内小中学校では黒球式熱中症指数計で毎日何度も測定し、暑さに応じた温度調整や活動制限を行っており安全性を確保している。市民向けには防災無線や市のLINEにより熱中症特別警戒アラートの周知やクーリングシェルの整備を行っている。腕時計型デバイスの活用については、先行事例など注視していく。

議 市内での空き家の数は年々増加中で令和6年度は合計522戸であった。令和7年5月敦賀市が、空き家になる前に売買などの相談がワンストップでできる空き家等管理活用支援法人を1ヵ所指定した。司法書士や土地家屋調査士などの専門家で構成されている。市でも空き家相談窓口について検討できないか伺う。

理 市は、空き家対策を市民の安全・安心確保の重要施策と認識しており、所有者からの管理・活用方法に関する情報提供や相談ニーズがあることを把握している。これまで市民課窓口でのパンフレット配布や無料相談会等を実施してきた。

今後は、令和6年度の空家実態調査結果に基づき、空家所有者等から同意を得た情報を提供し、民間主導の空き家解消や利活用を促進する。県内他市町の空家等管理活用支援法人の活動状況や効果を注視し、市における同法人の指定について検討を進めていく。